

## ナイロビ国際ブックフェア

岸 真由美

毎年恒例のナイロビ国際ブックフェアが二〇一一年九月二日から一〇月二日の日程で開催された。この時期に資料収集のためナイロビを訪問し、ブックフェアに足を運んだ。

主催はケニア出版協会 (Kenya Publishers Association)。一九九八年の第一回から今回で一四回目になる。今回のテーマは「エンパワメントのための読書」であった。協会のウェブサイト (<http://www.kenyapublishers.org/>) によれば、来場数約二



万四〇〇〇人、出展八五社で、内訳は国内七〇社、海外一五社。参加国はウガンダ、タンザニア、エチオピア、インド、セネガル、南アフリカ、イラン、中国、およびアメリカであった。会場でもらえる『出展者マガジン』(参考文献①)によると、出展者の内訳は出版社・印刷所三五社、書店・販売代理店八社、政府関係機関七団体、その他、国立図書館、学術研究機関、国際機関、非営利団体等。主要な学術図書出版社が一カ所に集まっているため、学術資料の収集は都合がよい。大学

出版局としてケニアのナイロビ大学、ケニヤッタ大学、モイ大学、学術研究機関としてアフリカ調査資源フォーラム (ARRF)、アフリカ経済調査コンソーシアム (AERC)、タンザニアのダルエスサラーム大学スワヒリ語研究所、セネガルに拠点を置くアフリカ社会科学研究発展

評議会 (CODESRIA) がブースを構えていた。フェア開催中にはいくつかのイベントも行われた。その一つが「ジヨモ・ケニヤッタ賞」の授賞式である。これはケニア国内における書籍の普及を目的に創設されたもので、ケニアで最も名誉ある文学賞である。ケニア出版協会

主催、ナイロビ最大の書店テキストブック・センター後援で、二年に一度の選考。英語またはスワヒリ語で書かれた作品の中から、児童文学、青少年文学、大人向け文学の各カテゴリーで選ばれる。今回は一七作品が受賞した。他のイベントとして、新人作家向けのセミナーや子ども向けのワークショップなどもある。なかでも毎年開催される子ども向けワークショップは主要なイベントの一つである。今回はナイロビの二〇校から招待された生徒たちが作文・詩・絵の出来を競い合った。

ところで、ナイロビ国際ブックフェアは来場者のうち生徒が約九〇〇〇人で、全体の四割弱を占める。彼らの多くは郊外や地方からスクールバスでやってくる。目的は主

に教科書や学習教材の購入のようだ。

実は、ブックフェアの最大の来場者が生徒たちであることは、ケニアの出版業界の特徴を反映している。ケニアでは教科書や学習教材の出版が全体の六割を占め、これに宗教科関係の書籍と児童書が続く。一般書の市場はまだまだ小さいのである。また、教室外で教養や楽しみのために本を読む習慣があまり根付いていないと言われている。そもそも読書の推進が出版業界や教育界で大きなテーマとなるのは九〇年代に入ってからで、それまでは非識字の撲滅が盛んに叫ばれていた。貧困や失業から抜け出すためには識字能力を身につけ、試験に合格し、そして職を得ることが必要だと考えられてきたからである(参考文献②)。また、読書をしないう理由に関する調査を実施したところ、多くのケニア人が試験中心の教育制度の影響(五五・八%)と書籍の価格が高いこと(五一・一%)を理由に挙げた(参考文献③)。学校のカリキュラムの中では読む楽しみを味わえず、買おうと思っても本は高いということらしい。

今回のブックフェアのテーマ「エンパワメントのための読書」が根付くためには課題はまだ多いようだ。(きし まゆみ/アジア経済研究所図書館)

### 【参考文献】

- ① Kenya Publishers Association (KPA) [2011] 14th Nairobi International Book Fair: 2011 Exhibitor's Magazine. Nairobi: KPA.
- ② Makotsi, R. and Nyariki, L. [1997] *Publishing and Book Trade in Kenya*. Nairobi: East African Educational Publishers.
- ③ Rotich, D. C. and Buigut, K. S. [2009] *Contemporary Publishing and Book Trade in Kenya*. Eldoret: Moi University Press.

